

第 127 回素粒子原子核研究所運営会議議事要旨

日 時 令和 4 年 6 月 2 日（木）13：30～

場 所 管理棟大会議室 + ウェブ（Zoom）併用

出席者 花垣議長、飯嶋委員、五十嵐委員、市川委員、後田委員、宇野委員、大西委員、荻津委員、川越委員、久世委員、小松原委員、塩澤委員、瀬戸委員、高橋委員、田島委員、田村委員、飛山委員、永江委員、中平委員、中村哲委員、中村隆司委員、橋本委員、松本委員、三原委員
（欠席者 浅井委員、中野委員）

オブザーバー 齊藤素粒子原子核研究所長、足立理事、岡田理事、幅理事、住吉監事、波戸共通基盤研究施設長、五味田総務部長、阿部財務部長、永木研究協力部長、外山施設部長、幸田参事役、坪監査室長、櫻井人事労務課長、岡田研究協力課長、島根共同利用支援室長

配付資料

1. 第 7 期素粒子原子核研究所運営会議名簿
2. 第 126 回素粒子原子核研究所運営会議議事要録
3. 人事異動
4. 博士研究員の選考結果について
5. 研究員の選考結果について
6. 教員の人事選考手続き等の一部改正について
7. 2022 年度素粒子原子核宇宙シミュレーションプログラム審査結果一覧
8. 協定・覚書等一覧(国内機関関係)
9. 教員公募（研究機関講師・実験・若干名）
10. 教員公募（准教授 1 名・実験・女性）
11. 教員公募（助教 1 名・実験・女性）
12. 教員公募（助教 1 名・理論・女性・卓越研究員）
13. 研究員の選考に係る人事委員会の設置について

議 事

オープンセッション

- (1) 所長報告
- (2) サイエンストーク

田村委員から、「"クォーク系物理学"をつくる—J-PARC ハドロンの挑戦」と題して、サイエンストークが行われた。

1. 委員の交代について

花垣議長から、資料 1 に基づき、新たに就任した中平委員の紹介が行われた。

2. 第126回議事要録の確認について

花垣議長から、資料2の議事要録については事前に確認済みであり、確定版を配付している旨の説明があった。

3. 所長等報告

(1) 人事異動

齊藤所長から、資料3に基づき報告があった。

(2) 博士研究員の選考結果について

齊藤所長から、資料4に基づき報告があった。

〈主な意見、質疑等〉

・何名程度の応募があったか。

→14名。

(3) 研究員の選考結果について

齊藤所長から、資料5に基づき報告があった。

(4) 教員の人事選考手続き等の一部改正について

幅理事から、資料6に基づき報告があった。

〈主な意見、質疑等〉

・素核研及び当運営会議としては、今までの博士研究員と同様に選考すればよいということか。

→そのとおり。

・博士学生支援事業について、必ずしも3年間で博士課程を修了できない可能性があるが、その場合にはどのように扱うのか。

→総研大の博士課程に在籍している間は、3年を過ぎた時点で支援金等が支給されなくなる。その後、博士課程が修了した時点で、KEKのフェローシップ（特別博士研究員として2年間をサポートするもの）が開始される。

・3年間で博士課程を修了できなかった場合の猶予期間に制限はあるのか。

→フェローシップ全体で8年間という制限がある。そのため、多少の猶予はあるだろう。

(5) 2022年度素粒子原子核宇宙シミュレーションプログラムの審査結果について

齊藤所長から、資料7に基づき報告があった。

(6) 各プロジェクト報告、その他

※各プロジェクト報告及び協定等の締結について（国内機関）の報告については、資料配付のみ。

4. 審議

(1) 教員公募（研究機関講師・実験・若干名）

齊藤所長から、資料9に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。併せて、人事委員会についても提案のとおり了承された。

(2) 教員公募（准教授1名・実験・女性）

齊藤所長から、資料10に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。併せて、人事委員会についても提案のとおり了承された。

(3) 教員公募（助教1名・実験・女性）

齊藤所長から、資料11に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。併せて、人事委員会についても提案のとおり了承された。

〈主な意見、質疑等〉※審議（2）及び（3）に関するもの。

・審議（2）及び（3）は、それぞれ職位を准教授1名、助教1名としているが、いずれかを2名とする案はないのか。

→その案も検討したが、組織上の今後の展望に基づきこのように設定した。

・「3. 応募資格」に記載されている「男女雇用機会均等法第8条の規定により、」の文言は、同文中の「女性を対象とした公募を実施します。」の前に置くと意味がより明確になる。

→審議（2）、（3）及び（4）について、そのように修正する。

・公募する教員等の男女比について、今後の目標はあるのか。

→素核研では、女性を毎年3人程度増やしていく予定。これを実現しないと、機構から定員削減のペナルティが課せられる可能性がある。

(4) 教員公募（助教1名・理論・女性・卓越研究員）

齊藤所長から、資料12に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。併せて、人事委員会についても提案のとおり了承された。

〈主な意見、質疑等〉

・前回、卓越研究員は早く応募した者から採用される仕組みであったが、今回はどうか。

→文部科学省によると、今回は8月末日の締切までに応募した者の中から選出すると聞いている。

・卓越研究員に採択された場合、一定期間研究費の補助が出るが、本件はテニユアトラック制度のような人事なのか。

→テニユアトラック制度のような人事ではない。卓越研究員事業への応募を条件として課しつつも、あくまで一般的な助教の公募である。

(5) 研究員の選考に係る人事委員会の設置について

齊藤所長から、資料13に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。併せて、人事委員会についても提案のとおり了承された。

〈主な意見、質疑等〉

・この研究員の案件のみ、人事委員会を設置するのは何故か。

→本件は科研費を原資としたものであり、科研費担当者の専門的知識に基づいた選考を実施したい。また、公募の際に入手する個人情報、人事委員会委員にのみ送付可能なため、個人情報を適切に取り扱うために人事委員会を設置したい。

・科研費での雇用について言えば、他の大学では、特任助教以上を選考する場合にのみ人事委員会を開催しているところもある。このような大学では、特任助教未満の研究者を雇う際に、科研費を持つ教員が裁量的に選考できるケースが多い。現行のKEKの制度では、原則として常設の人事委員会で選考することとなっており、若手研究者が科研費を獲得した際にその若手研究者の意向に沿った人材を選考することができるのか、疑問である。

→科研費を獲得した若手研究者の意向にそった人材を選考できるようにするのであれば、当運営会議において、規程類の改正に向けて今後議論していく必要がある。

・常設の人事委員会については、各委員の業務量も勘案すると更なる効率化を目的として改善を図るべきである。

5. 閉会

次回の素粒子原子核研究所運営会議は令和4年7月21日13時30分から開催するとの案内があり、閉会した。

以上